

企画・制作=日本経済新聞社
クロスメディア営業局

広告

2015年「世界スカウトジャンボリー」 に向けて——

ボーイスカウトのモットー

「そなえよつねに」は私の人生のモットーです

子どもの頃に出会ったボーイスカウト活動が、その後の人生に大きな影響を与えるケースは少なくない。このほど日本のボーイスカウトからスカウト・アンバサダーを委嘱されたスポーツ用品大手ミズノの会長、水野正人氏もその一人だ。ボーイスカウトで学んだ事が一生の力になっていると語る水野氏にお話を伺った。

ボーイスカウトを通じ 心身ともに成長 視野は海外に広がる

ボーイスカウトとの出会いは、私は兵庫県芦屋生まれで、ミズノ創業者の祖父に可愛がられて育ちました。姉と相撲をしても勝てないような子でしたから、祖父が心配して、地域のボーイスカウトの団に入られました。小学校3年生くらいの時だったと思います。スカウトからボーイスカウト、そしてシテスカウト(現ベンチヤースカウト)と、高校まで活動を続けました。

手旗信号やロープ結び、救急法などの訓練に没頭し、2級スカウト、1級スカウトと進級して、菊スカウトにまでなりました。何しろキャンプに行くのが楽しかったですね。芦屋のすぐ裏は六甲山です。高崖の滝やロックガーデンなど、テントを担いで飯トラを持って、しばしは出かけました。

——世界スカウトジャンボリーにも参加されたそうですね。
1959年、高校1年生の時、ワイリピンで行われた第10回世界ジャンボリーに派遣されました。日本からは500人から550人が参加したと思います。

とにかく自然の中で生きていくという貴重な経験を積みました。ワイリピンですから、スクールがやってくる土降りの雨が降ります。気が付いたらテントの回りはすっかり泥沼になっていました。そんな中でも真事を作ったり、外国人と身振り手振りでコミュニケーションをしたり。ワイリピンの人たちが温かく歓迎してくれたことを今でも覚えています。

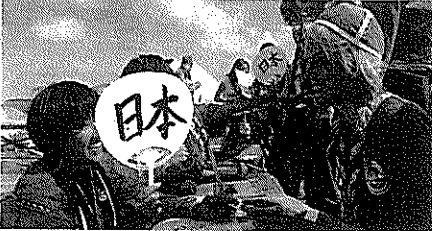
——印象に残っていることはありますか。
当時の日本はまだ戦後の余韻が残っていましたから、モノも豊かではありません。一方、ワイリピンでのジャンボリーはキャンプの設備などが日本よりもはるかに進んでいました。

また、六甲にはカナディアンアカデミーといライオンターナショナルスクールがあって、そこにもボーイスカウトの団がありました。一緒にキャンプに行き、驚いたのは、彼らは立派な立派なような立派なテントを持ち、ベッドまである。料理をするのもガスレンジです。われわれのテントは小型の粗末なものでしたから、驚いたものです。

——すっかり海外が気に入ったそうですね。
父に大学に進学せずに米国に行きたいと言ったのですが、さすがに反対され、日本の大学を出た後に米国に留学しました。ワイリピン・ジャンボリーでの経験が海外に行く大きなきっかけになったと思います。

第23回
世界スカウトジャンボリー
2015年7月28日～8月8日

世界スカウトジャンボリーは、ボーイスカウトの世界組織である世界スカウト機構の主催により、世界各国で4年に1度開催される世界最大の教育行事です。23回目となる今回の大会は、「和:a Spirit of Unity」の大会テーマのもと、世界162の国と地域から3万人余の青少年が日本に集い、約2週間のキャンプ生活や、多種多様なプログラムを共に体験します。我が国での開催は、1971年(昭和46年)に静岡県・朝霧高原で開催されて以来、44年ぶり2回目となります。




1959年、第10回世界ジャンボリー(ワイリピン)出発直前、派遣仲間と一緒に撮影。左写真:右側 右写真:左より2番目

ボーイスカウト経験は 会社経営にも 活かされている

——ボーイスカウトの経験は人生に役立ちましたか。
私はボーイスカウトの代表というところで加させてもらいました。当時トヨタ政府が各地で作っていた「ボルツシヤレ」(スポーツ学校)を訪問し、交流しました。



ミズノ 相談役会長 水野正人氏
1943年(昭和18年)5月25日兵庫県芦屋市生まれ。甲南大学経済学部卒業。米国ウイスコンシン州カーセージカレッジ理学部卒業。66年に美津濃(現ミズノ)株式会社入社。88年に同社代表取締役社長、06年に代表取締役会長に就任。12年より顧問。14年よりボーイスカウト・アンバサダーを務める。

——具体的に「そなえよつねに」を実践されていますか。
「先付けノート」と呼んでいるのですが、ダイヤリーに工夫をしています。2カ月前にやり遂げなければならぬ課題があるとしたら、ダイヤリーに「あと2カ月前」と1カ月「あと1週間」といったリマインダーを書き込んでおくのです。これもボーイスカウトから学んだ「そなえよつねに」の実践例かもしれません。

——このたび「ボーイスカウト・アンバサダー」に就任されました。
少子化の影響もあるのだと思いますが、ボーイスカウトの姿をほとんど見かけなくなりました。世の中にもっとこの運動の素晴らしさをアピールしなければいけませんね。私もできる限り応援させていただきます。自分自身が育ててもらった恩返しをしたいと思います。(聞き手は磯山友幸)

ボーイスカウト 検索